

令和4年2月14日

## 経済情報研究会開催のご案内

岐阜聖徳学園大学経済情報研究所では、下記研究プロジェクトによる研究会を、下記のとおり開催いたします。研究会では講師お二人に講演をいただき、その後ディスカッションを行います。ご関心のある方は、ぜひご参加のほどお願い申し上げます。

### 記

日 時 令和4年3月10日(木) 15時～16時30分

実施方法 google meet によるオンライン  
<https://meet.google.com/onc-jxbn-hcs>

研究プロジェクト ・ルカ・パチョーリの『算術、幾何、比および比例に関する全集』  
(スママ)における複式簿記の数学的構造(大成利広)  
・会計と数学との関連(福田茂隆)

#### (講演①)

講 師 岐阜聖徳学園大学経済情報学部 教授 大成利広  
演 題 スママにおける複式簿記の位置づけと構造について  
要 旨 複式簿記は、500年以上そのシステムが変化することなく現代に至るまで使用されている。複式簿記の起源については、諸説あるが、世界で最初に出版物として紹介されたのは、ルカ・パチョーリの『算術、幾何、比および比例に関する全集』(スママ)という数学書の中で書かれた複式簿記による帳簿の作成方法である。この数学書の中で、帳簿の作成法である複式簿記が集録された背景や現代の複式簿記と照らし合わせて、そのシステムについて検討する。

#### (講演②)

講 師 岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 福田茂隆  
演 題 Luca Pacioli の生涯と数学的貢献(after Kim Sung Sook and Khang MeeKyung)  
要 旨 ルネサンス期の学者 Luca Pacioli の生涯と、その著書「算術集成(Summa)」および「神聖比例」における数学的貢献を、Kim Sung Sook 氏と Khang MeeKyung 氏の共著論文から紹介する。

主 催 岐阜聖徳学園大学経済情報研究所

問合せ先 経済情報研究所事務室 Email [gifukyomu@shotoku.ac.jp](mailto:gifukyomu@shotoku.ac.jp)